



令和 2 年 4 月 23 日

## 「がん患者だって子どもを持ちたい」 生殖機能温存治療についての男性向けパンフレットが完成

### ◆発表のポイント

- ・がんの化学療法や放射線療法により、精巣がダメージを受け、精子を作る機能が低下してしまうことがあります。このため、がん治療前に精子を凍結保存しておく「生殖機能温存治療」が行われています。
- ・がん治療を受ける男性へ向けての冊子を作成し、がん診療を行う医療施設への配布を始めました。

### <概 要>

男性が子どもを持つためには、精巣の中で作られる精子が必要です。がんの治療である化学療法(抗がん剤治療)や放射線療法を行うと、精巣がダメージを受け、精子の数が減少したり、精子を作れなくなったりすることがあります。

これからがんの治療を受ける患者やそのご家族は、がん治療のことで頭がいっぱいとなり、将来の子どものことまで考えられないかもしれません。しかし、精子を凍結保存しておく、凍結精子を用いた体外受精など、生殖医療によって子どもをもつことが可能になっています。

近年、医学の進歩とともに、がんを克服し、その後に子どもを持つことを希望する方々が増えています。しかし、このような方法があることを知らずに生殖機能を失い、後悔している方もいます。

今回、がん治療に向かう男性に向けて、男性の生殖機能温存についてのパンフレット『将来、子どもを持つことについて知りたい方とその家族へ がん治療の前に知っておきたい精子の凍結保存のこと』を作成しました。

また、これまで岡山大学病院リプロダクションセンター、岡山大学大学院保健学研究科が、がんの治療に向かう患者とご家族に向けて作成したパンフレット『将来、子どもを持つことについて知りたい方とその家族へ がん治療の前に知っておきたい生殖機能温存・妊孕性温存治療のこと』の改訂版も作成しました。

これらのパンフレットが、生殖機能温存について知るきっかけとなり、悔いなく、がん治療に向かうこと、がん克服後に子どもを持つことにつながればと思います。

### 資料

- ・「将来、子どもを持つことについて知りたい方とその家族へ  
がん治療の前に知っておきたい 生殖機能温存・妊孕性温存治療のこと」パンフレット  
[https://www.okayama-u.ac.jp/user/mikiya/img/ninyouseionzon\\_2\\_2020.pdf](https://www.okayama-u.ac.jp/user/mikiya/img/ninyouseionzon_2_2020.pdf)
- ・「将来、子どもをもつことについて知りたい方とその家族へ  
がん治療の前に知っておきたい 精子の凍結保存のこと」パンフレット  
[https://www.okayama-u.ac.jp/user/mikiya/img/danseifunin\\_2020.pdf](https://www.okayama-u.ac.jp/user/mikiya/img/danseifunin_2020.pdf)



◆研究者からのひとこと

岡山大学病院リプロダクションセンターでは、がん患者の妊孕性温存治療を行うとともに、この治療を広く知っていただくための活動をしています。

この冊子は、岡山県妊孕性温存治療に関する研修事業と岡山大学SDGs（持続可能な開発目標）推進事業の助成により作成しました。

「がんと生殖医療ネットワーク OKAYAMA」代表  
岡山大学病院リプロダクションセンター センター長  
岡山県不妊専門相談センター センター長

中塚幹也



<お問い合わせ先>

岡山大学大学院保健学研究科 中塚研究室  
岡山大学生殖補助医療技術教育研究（ART）センター  
教授 中塚幹也  
（電話番号）086-235-6538（FAX兼）



岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。